

特色GPに関連するシンポジウムの報告

2008年度大阪府立大学特色GPシンポジウム 「大学初年次数学教育の再構築に向けて」 — 高大連携のその先へ —

2008年8月9日（土） 13:00～17:00

主催：大阪府立大学総合教育研究機構

場所：大阪府立大学中百舌鳥キャンパス B 3棟 208教室

参加者：26名（高校教員 14名、学内 12名）

オープンキャンパスの一貫として、大阪府立大学の特色GPの取組みをもとに、数学教育を良くしていくために高大連携をどう進めていくかを考えるためにシンポジウムを開催した。プログラムは以下の通りである。

13:00～13:10 開会の挨拶

総合教育研究機構 機構長 奥野 武俊

13:10～13:40 特色GPプログラムの内容の紹介

総合教育研究機構 教授 高橋 哲也

13:40～14:10 高校生用数学 e-learning コンテンツの説明

総合教育研究機構 准教授 川添 充

14:10～14:40 現在の学習指導要領の下での高校の数学教育の現状について

大阪府立咲洲高等学校 校長 芝田 秀和

14:40～14:50 休憩

14:50～15:20 数学基礎学力調査試験の結果

総合教育研究機構 教授 向内 康人

15:20～15:50 「今後の初年次数学教育の在り方に関する調査研究」（文部科学省先導的・大学改革推進委託）の数学に関する部分の報告

総合教育研究機構 准教授 川添 充

16:00～17:00 情報交換会



特色 GP プログラムの紹介に対しては、再履修クラスの成果、質問受付室のデータについて質問があった。とくに、質問受付室については関心を引き、実際の教室も見ていただいた。高校生用の e-learning システムについては、高校側でも協力できるのではないかという意見があった。芝田校長は、中央教育審議会教育課程部会の算数・数学専門委員も務められていて、算数・数学の学習指導要領の変遷、特に年間授業時間数の変化から、現行の指導要領と次期指導要領の関係などについて貴重な情報と意見を話していただいた。大学側で感じている高校生の変化について、実際の指導要領の内容からも納得できる部分もあり、今後の新入生の指導について多いに参考となる内容であった。大阪府立大学で新入生に対して実施している数学基礎学力調査の結果については、参加者は驚いていたが、微分は出来ても定義は分からないとか、数 B の内容が定着していないといったことは、高校の現場でも実感しているようであった。先導的・大学改革推進委託の結果については、入試が終わってから入学までの間に、高校で勉強していた内容を忘れてしまう学生が多いという内容に驚いている参加者が多かったが、一方では、そういうこともあると納得する方もおられた。

実際に一番成果があったのは、情報交換会であった。ここでは、具体的な指導要領の内容（例えば、1 次変換を高校でどう扱うか）について、高校教員と大学教員とのギャップの認識と実際にどうすればいいかという議論の中でお互いに納得できる部分まで合意できるものもあった。また、e-learning (webMath システム) の教材について高校側から提供することも可能ではないかというところで今後検討していくことになった。

今回、高校の数学教員と府大で大学数学教育の改善への取組みを通じて、現状の問題点、課題を共有できたことは今後の GP の取組み（特に、高校との連携の部分）にとって大きな成果であった。今後も継続して、高校教員との意見交換や e-learning の教材開発での協力を進めていきたい。

